

博物館活用事例集 ②

山梨県立博物館を活用した
学習活動事例集
(高等学校編)



県立博物館ジオラマ『里にくらす』より

山梨県立博物館
博物館活用研究会

博物館活用事例集 ①

山梨県立博物館を活用した
学習活動事例集
(小中学校編)



県立博物館ジオラマ
『城下町の賑わい』より

山梨県立博物館
博物館活用研究会

《富士山ボランティアセンターからのお知らせ》

富士山に年賀状を出してみませんか
富士さんへ謹賀新年

この企画は、年賀状をとおして富士山について考え、愛着を深めていただくために行います。イラストにみなさんの熱い気持ちを込めた新年のあいさつ・メッセージなどを添えた「富士山あて年賀状」をお待ちしておりますので、奮ってご応募ください。

○ 募集期間

平成17年12月1日(木)～平成18年1月10日(火) ※1/10必着とします。

○ 募集内容

富士山のイラストに、富士山に向けて親しみを込めた新年のあいさつやメッセージを書き添えた「富士山」宛の年賀状として書いたもの。

○ その他

詳細につきましては、下記お問い合わせ先にてご確認ください。

お問い合わせ

富士山ボランティアセンター

電話 0555-20-9229 FAX0555-72-4114

URL <http://www.eps4.coalink.ne.jp/~fujisan/>

メール fujisan@eps4.coalink.ne.jp



図書館情報システムの紹介

1 概略

この「図書館情報システム」は、県立高等学校三十一校をネットワークで結び、自分の学校の図書館だけでなく、他の県立高等学校の図書館の蔵書検索もできるようにしたものです。

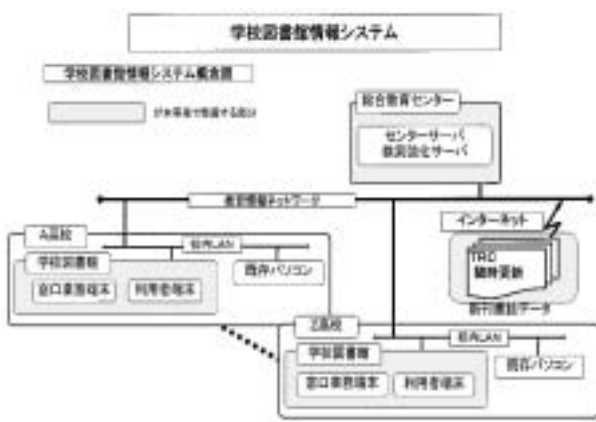
この機能を利用して生徒の読書活動が盛んになり、教科学習や、総合的な学習の時間等の「調べ学習」が一層充実するなど、図書館の効果的活用がすすむことを目指しています。

2 図書館情報システムの仕組み

このシステムでは、各県立学校図書館内に生徒の蔵書検索用パソコンと、図書館職員の業務処理用パソコンを配備しました。これと各高校の校内LANを利用し、生徒の各教室に配備されたパソコンと、さらに各教員に配備されたパソコンと接続しました。このことにより自分の高校に止まらず、他の高校の蔵書検索までも可能になりました。

具体的には、読みたいと思っている本が、自分の高校の図書館にない場合、このシステムを利用し、「近くの学校」、「全部の学校(県下の高等学校全部)」など、画面の指示に従いながら、徐々に調べる範囲を広げて本を検索し、目当ての本を探します。

そして目指す本を見つけたら、本の題



蔵書返却の場合も、自分の学校の図書館に返却すればよく、相手校に持参する必要はありません。

名やどこの図書館にあるのかをメモして、自分の学校の図書館に行き、司書の先生か司書教諭の先生に申し出ます。

すると司書の先生は、業務用パソコンの処理システムを使って、該当の学校の蔵書の貸し出し手続きを行います。

その後、貸出先の高等学校から、自分の高等学校の図書館に蔵書が送られてきます。そして本を借りたい生徒に連絡が行き、他の高校の本を借りることができるとのことです。

3 期待される効果

これから国際化が一層進む社会を、子どもたちは生きていくこととなります。ここでは、多くの人々と円滑にコミュニケーションを図る能力が大切であるとされています。さらに、多くの人たちと相互に理解し合ったり、一緒に問題を解決していく場面では、論理的な思考力が大切です。自分の考えや意見を正しく伝える力、つまり論理的に話す力や、また相手の話をじっくり聞き、正しく理解すること、さらには互いの意見を摺り合わせて、問題を解決することが、能力として求められる時代を迎えています。

ところで論理的に考える力は、先に述べたように、人と人のつながりを前提としています。ですから当然、前提として、他人の心を理解する情緒を豊かにしていくことが、今以上に必要となります。

そして考えることは、「言葉」を用いて考えるわけですから、その人が持っている言葉の量や語彙力が、考える範囲を決定します。

したがって、今後子どもたちは、様々な言葉に多く接し、国語や漢語、漢字などの語彙を豊かにしていく必要があります。もちろん、諸外国の言葉なども、できるだけたくさん学ぶのに越したことはありません。

もともと読書は、語彙を増やしたり、文学作品などを通して、様々な心の在り方を体験する機会になると言われています。読書は、楽しみだけでなく、生徒たちにとって、社会の扉を開くことにつながる行為なのです。

しかし、読書や調べ学習が進んでくると、必ずしも自分の通う学校にある蔵書だけでは解決できないことも生じてきます。そうしたとき、この図書館情報システムを大いに利用して欲しいと期待しています。

さらに、先生方もこの蔵書検索機能を前提として、授業を計画し、一層問題解決的な学びの機会がふえるよう、工夫が進展することを願っています。

4 終わりに

とかくコンピュータを利用することは、人間的な情緒に欠けることだと思われがちです。

しかし、このシステムの目的はあくまでも「本を読む」ことです。読書は、まさに最も人間的な行為です。

人類は文字を発明し、思想、知識、知恵などの先人が生み出した様々な知見を「本」という媒体にストックしてきました。

そして人々は、本を読み、先人たちの知見を紐解き、学び、さらなる工夫を重ねて現代に至る歴史と文明を築いてきました。

この図書館情報システムが、今後読書への関心を高め、様々な学びに利用され、子どもたちの未来をより一層豊かにするために活用されたいことを願っています。



県立博物館の展示内容紹介 ⑦

— ジオラマの奥深い世界 — — 県立博物館 —

博物館の展示室内でひととき目を引く展示が、中央に広がる江戸時代の里のジオラマ（情景模型）、そしてその左右の甲府城下町と、山の暮らしのジオラマです。

昔の生活の様子を見てみたいと思ったことはありませんか？でも実物資料のみから、昔の生活を想像することは難しいものです。そこで活躍するのがこのジオラマなのです。

ジオラマには表情豊かな人形が四百体近く配置され、人々の暮らしが生き生きと再現されています。お子さんにもひととき万人気のある展示です。でも、子供だましと片付けられない下さい。知れば知るほど、奥深い展示なのです。

このジオラマ、もちろん想像で作っているわけではありません。県立博物館の展示としてお見せするからには、学術的な裏付けがな



「甲府八日町正月初売之景」

初売りのジオラマ



ければなりません。

復元に当たっては、まず時代、季節、天候、時刻、場所など細かな設定が決められます。次に、その設定に合わせて資料の調査がおこなわれます。古文書の調査は

もちろん、絵画や古民具、建築学、考古学の発掘成果なども総動員して当時の情景を復元していきます。

たとえば、江戸時代の甲府八日町、正月の初売りの模型を作る際に参考とされたのが当時の絵でした。菓子屋の「升屋」の店先に高く積み重ねられた初荷の菓子の箱が描かれています。

また、道を作るにあたっては、なんと発掘調査で記録された土の色までが参考にされているのです。

細部にも工夫を凝らしています。たとえば木

戸の汚れ具合や風化の表現、雑草の一本一本。人形の表情の豊かさにもご注目下さい。そのすべてにストーリーがあります。どんなことをしゃべっているのでしょうか？知りたい方は近くの情報検索装置の画面に触れてみて下さい。

遊び心も忘れていません。女性に化けたキツネ、ウナギなど意外なキャラクターもいて、子供向けクイズの素材にもなっています。

そうはいってもここは博物館。実物資料、ホンモノを見なければ物足りないと言う方、模型の下引き出しを見落としていませんか？そこには模型の根拠になった資料や関連資料が入っていて、発見する楽しさを味わいながら、鑑賞することが出来ます。



学びの引き出し

に地道ながらも着実に調査・研究成果にもとづいた、山梨の先人達の生き生きとした暮らしに触れることができ

ます。細かく見ていけば、

何度来て頂いても新たな発見があります。どうぞ繰り返し来館して、山梨の歴史世界を旅して下さい。

らくがき



「PTAの力」

在原 直樹

『明見小PTA親子ふれあいフェスタ』～今年の日曜参観後に、PTA主催で開かれた初めての行事です。みなさんは、どんな内容を想像するでしょうか。本校は、児童数722人、家庭数497人という大規模校です。この全ての人たちを対象に、『お祭り』を開いたのです。パネルシアター・絵手紙・科学実験・昔遊び・体力診断・地域の生き物たち・明見小ウォークラリー・思い出の写真展など、20のコーナーに、地域の方から12人の講師やボランティアをお願いし、その一つ一つのコーナーを30人を超えるPTAの役員の皆さんが運営しました。

学校側の担当として、私も5回の打ち合わせに参加しました。そこで感じたのが「PTAの力」です。

これまで道徳では心のノートでの交流、また生活科や社会科ではゲストティーチャーとして、様々な形で保護者の皆さんに協力をお願いしてきました。その折々に保護者の方の持っている力の大きさを感じていました。今回の行事では、さらに「奉仕するPTA・考えるPTA・行動するPTA」の統合した形での力を発揮して頂きました。

この行事には、新しさを感じる人も古さを感じる人もいるかもしれません。しかし、「PTAの力」は、これからの学校教育に欠くことができないものだと思えて痛感した1日になりました。

(明見小学校)



子供たちとともに

田鹿 紫

本校の総合学習は「SaiharaWALK」と名付けられ、体験学習と追究学習を行っている。体験学習では、地域の方々に講師に招いたり、貴重な材料を地域の方からいただいたり、道具を地域の方からお借りしたりと、体験を通して西原を見つめ直すだけではなく、故郷西原に住むさまざまな方たちとふれあっている。また、体験学習後に行われる追究学習においても、地域住民の方々に情報をお聞きしたり、地域内を直接調査に行ったりと、地域の方とふれあいを通して、郷土西原の豊かな自然や歴史、文化について子どもたちは個々でテーマを設定し、広く深く追究している。子どもたちは、地域の方々への感謝の気持ちや郷土を愛する心を持ち、自ら追究し課題を解決しようとする力を身につけ、この「SaiharaWALK」を通して生きる力を身につけてきている。

純粋で何事にも一生懸命取り組む子どもたちと、そんな子どもたちを陰から支える地域の方々、そして教師集団が一体となって本校の総合学習は成り立っている。

そんな子どもたちや地域の方々、そして西原の豊かな自然や文化、歴史と関わっていける自分に喜びを感じる。これからも、何事にも全力で取り組む素直な子どもたちの活動に私も全力で携わっていき、教師としての力量を高めていきたい。

(西原中学校)

よこしな県立科学館へ

県立科学館

甲府盆地を一望できる愛宕山の上に科学館があります。「サイエンスシップ」という愛称を持つ船のような館内では、沢山のわくわくする体験が待っています。

展示室では全ての展示物に触れる事が出来ます。月の上を歩いているような体験の出来る「月面歩行」や一年中雪の降る「雪の世界」などがあり、お子様から大人の方まで遊びながら学べる空間です。

スペースシアターではプラネタリウムやアストロビジョン映画が投影されており、プラネタリウムは星空生解説とテーマ番組の2部構成、アストロビジョン映画は直径20Mのドームいっぱいの大迫力映像でお届けしています。そのほか「星空コンサート」「金曜夜の天体観測室公開」「月の出観望会」「太陽の観測」なども行っています。

実験・工作教室では、光るおもちゃスライム・電動おさんぼメカなど様々なメニューが好評です。「サイエンスショー」では、マイナス19.6度の超低温世界で起きる驚異の現象やシャボン玉の爆発などの色々なショーの実演が観客をドキドキさせています。

授乳室完備のあそびの部屋は、幼児や小学校低学年生を対象としており、積み木やブロックで遊べるコーナーやPC遊びの出来るブースがあり、また「こどもクラフト」を毎日行っています。

このように楽しさ盛り沢山の科学館に、ぜひ一度お越し下さい。



空気砲